

2017 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 2 月 13 日作成)

小委員会名	文化遺産災害対策小委員会		主 査 名：足立裕司 就任年月：2016 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠委員会		委員長名：石田潤一郎 主 査 名：
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2021 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・文化遺産を災害から守るための仕組み作り ・2017～2020 年度 熊本地震、鳥取地震で被災した文化遺産の被害調査。 地震時に被災した文化遺産の被害調査と今後の対応応急策の検討。 関係学会、機関による研究・対策等に関する情報収集。耐震補強・火災対策、 建築基準法の文化財適用除外条項の拡大に伴う諸問題の検討。ほか 		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：なし		
	主査：足立裕司 (神戸大学) 幹事：後藤治 (工学院大学) 委員：稲垣景子 (横浜国立大学)、梅津章子 (文化庁)、大久保健之 (立命館大学)、大橋 竜太 (東京家政学院大学)、長谷見雄二 (早稲田大学)、花里利一 (三重大学)、藤 田香織 (東京大学)、益田兼房 (文化財建造物保存技術協会)、村上裕道 (兵庫県教 育委員会)、八木真爾 (佐藤総合計画)、安井昇 (桜設計集団)		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2017 年度予算	170,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	1 回 (合同委員会)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 上記パネルディスカッションは他委員会と共催して開催したので、領域間交流が進み 有意義であった。 2. 上記合同小委員会を通じて海外の文化遺産災害対策の状況の共有ができ、日本での対 策として有意義な知見を得ることができた。 3. 災害対策を含む地域の歴史的建造物を専門とする人材養成事業に協力を行った。 4. 以上二つの活動を通じて現状での課題が抽出され、次年度に向けた活動の準備を行う ことができ、次年度に向けてさらなる成果が期待できる活動となった。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 多領域の活動を包摂した研究テーマであるので、学会員外の企業や自治体の パネリストを招へいするには招請状等の発行を迅速に行う必要がある。 2. シンポジウムの企画と学会広報の間にずれがあり、昨今の情報化時代には合 わない規定であると思われるので、規約改正をしてほしい。